

千種小学校児童が ニンニクの芽摘み作業

黒土のニンニク栽培農家でお手伝い

6月5日、千種小学校2年生8名が、千草町黒土阿曾茂夫さんのニンニク栽培圃場で、芽摘み作業をしました。

快晴でとても暑い日でしたが、学校から坂道を歩いて圃場に到着した児童はさっそく阿曾さんに「ニンニクづくりの大変なところや、気を付けていることは何ですか。うれしいことは何ですか。」といった質問をしました。阿曾さんは、「ニンニク栽培は大変なことも多いけど、草取りしたりお天気を気にしながら一生懸命に世話をしているニンニクになって収穫できたときはとてもうれしい。」と答えていました。

圃場に植えてあるニンニクを見たのは初めてといった児童がほとんどで、「茎もニンニクの匂いがあるなあ」と歓声をあげながら摘み取っていました。

摘み取った芽は学校給食の食材として、みんなでいただくことになっています。



阿曾さんの指導のもと広い圃場でニンニクの芽を摘み取る児童

一宮北小・こども園合同

ふれあい農園で田植え

6月7日、一宮北小学校のふれあい農園で一宮北小学校の全校児童85人と、一宮北こども園の4歳・5歳園児14人が合同で田植えを行いました。

田植え前には、こども園の園児34人が田んぼに入り、泥んこ遊びに大はしゃぎ。その後、2・3・4年生が田植えして、最後に1年生が6年生と一緒に、園児は5年生と一緒に植えました。ちょうどトライやるウィークに来ていた中学生も加わり、みんな泥に足を取られながら、目印のロープをたよりに約8aの田んぼに丁寧に植えていきました。

一宮北小学校ではふるさと学習で食農教育の一環として毎年もち米を作っています。今年も昨年と同じもち米の「ヤマフクモチ」で収穫したもち米は、校内で調理するほか「みかたの朝市」で販売する予定にしています。

J Aハリマは今後も管内の小学生に少しでも農業になれ親しんでもらうため、学校農園活動に対する活動支援金を助成してまいります。



園児と一緒に楽しく植えました